

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	防災工学	担当教員	和田清, 廣瀬康之, 水野和憲		
学年学科	5年 環境都市工学科	前期	必修	1単位(学修)	
学習・教育目標	(D-3 安全系) 100%		JABEE 基準 1 (1) : (d)		
授業の目標と期待される効果： 本授業は、構造力学、水理学、土質力学、計画学等を基にして、国内外の災害および対策に関して下記の3項目を目標とする。 ①自然災害の種類およびメカニズムについて理解する。 ②自然災害に関するシミュレーションの考え方を理解する。 ③公共インフラの被害を防止するための計画、設計、メンテナンスについて理解する。		成績評価の方法： 総得点 100 点 = 構造系課題レポート 100 点×4/15 + 水理系課題レポート 100 点×4/15 + 土質系課題レポート 100 点×4/15 + 計画系課題レポート 100 点×3/15 総得点に対する得点率 (%) で総合評価を行う。なお、成績評価に教室外学修の内容は含まれる。 達成度評価の基準： ：国家公務員採用総合職試験（大卒程度）論述問題以上のレベルの課題を出題し、以下の項目について 6 割以上のレベルまで達していること。 ① 自然災害の種類およびメカニズムについて理解し、ほぼ正確に(6割以上)説明できる。 ② 自然災害に関するシミュレーションの考え方を理解し、ほぼ正確に(6割以上)説明できる。 ③ 公共インフラの被害を防止するための計画、設計、メンテナンスの考え方を理解し、ほぼ正確に(6割以上)説明できる。 国内外の災害および対策をほぼ正確に(6割以上)説明できる。			
授業の進め方とアドバイス： 授業は教科書と適宜スライドおよび資料で説明します。パワーポイントはスライドを配布します。					
教科書および参考書： 環境・都市システム系 教科書シリーズ 20 防災工学（淵田邦彦他，コロナ社出版，2014,3）を教科書として用いる。また適宜プリントを配布する。					
授業の概要と予定：前期		教室外学修		AL のレベル	
第 1 回：構造系	ガイダンス，地震被害，地震のメカニズム	近隣の地震被害とその特徴についてレポートにまとめる		C	
第 2 回：構造系	地震動とその特性	地震動の特性についてレポートにまとめる		C	
第 3 回：構造系	各種構造物の地震被害と対策	構造物の地震被害と対策についてレポートにまとめる		C	
第 4 回：構造系	耐震設計法・免震・制振	構造物の耐震設計法についてレポートにまとめる		C	
第 5 回：地盤系	ガイダンス，土砂災害，地盤災害の概要	土砂災害，地盤災害の概要についてレポートにまとめる		C	
第 6 回：地盤系	斜面災害（地滑り，土砂崩れ等）とその対策工法	斜面災害の概要とその対策についてレポートにまとめる		C	
第 7 回：地盤系	地盤沈下のメカニズムとその対策工法	地盤沈下現象の概要とその対策についてレポートにまとめる		C	
第 8 回：地盤系	液状化現象のメカニズムとその対策工法	液状化現象の概要とその対策についてレポートにまとめる		C	
第 9 回：水理系	豪雨災害および土石流災害の発生機構と防御対策	豪雨と土石流災害に関する課題についてレポートにまとめる		C	
第 10 回：水理系	高潮災害の発生機構と防御対策	高潮・高波に関する課題についてレポートにまとめる		C	
第 11 回：水理系	津波の発生機構と防御対策	津波に関する課題についてレポートにまとめる		C	
第 12 回：水理系	沿岸域の減災に向けた社会技術	沿岸域の減災に向けた対応策についてレポートにまとめる		C	
第 13 回：計画系	自然災害と社会資本への影響	自然災害と社会資本への影響についてレポートにまとめる		C	
第 14 回：計画系	災害対策と防災計画	災害対策と防災計画についてレポートにまとめる		B	
第 15 回：計画系	応急・復旧・復興対策	応急・復旧・復興対策についてレポートにまとめる		C	

*モデルコアカリキュラム検討結果を踏まえ、H29 年度から新規に取り入れた内容

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	自然災害の種類およびメカニズムについて理解し、正確に(8割以上)説明できる。	自然災害の種類およびメカニズムについて理解し、ほぼ正確に(6割以上)説明できる。	自然災害の種類およびメカニズムについて理解し、ほぼ正確に(6割以上)説明できない。
②	自然災害に関するシミュレーションの考え方を理解し、正確に(8割以上)説明できる。	自然災害に関するシミュレーションの考え方を理解し、ほぼ正確に(6割以上)説明できる。	自然災害に関するシミュレーションの考え方を理解し、ほぼ正確に(6割以上)説明できない。
③	公共インフラの被害を防止するための計画、設計、メンテナンスの考え方を理解し、正確に(8割以上)説明できる。	公共インフラの被害を防止するための計画、設計、メンテナンスの考え方を理解し、ほぼ正確に(6割以上)説明できる。	公共インフラの被害を防止するための計画、設計、メンテナンスの考え方を理解し、ほぼ正確に(6割以上)説明できない。